

自殺予防の事例を全国調査

学校の教材開発に生かす 取り組み

文部科学省は全国の都道府県や市教育委員会を通じて、自殺予防に関する学校の好事例や取り組み状況を調査する。自殺予防教育を学校現場に広めるため、調査結果を取り込んだ教材や指導資料を来年度には作成する予定だ。

来年度、指導資料も作成

子どもの自殺の問題をめぐって、文科省はこれ

文科省

もの自殺予防」や「子どもの自殺が起きたときの緊急対応の手引き」を作成してきた。今後は、自殺が起きない環境づくりに重点を置いた教材・指導資料の開発を進め、未然防止に力を入れる。

学校現場の取り組み状況を聞いた今回のアンケートでは、各校の自殺予防教育の内容や実施体制、教育課程上の位置付けなどを調査。併せて教委向けのアンケートも実施し、自殺予防に関する独自研修や教材の有無などを質問している。

文科省は有識者会議で調査結果を分析・検討し

た上で年度内に審議報告をまとめ、来年度には児童・生徒向け教材や教師用指導資料を作る。自殺予防教育を進めるが、道徳教育と同じ内容になってしまふなど、学校で陥りやすい事例について指摘した「べからず」集も作成する。

◇ 児童・生徒の自殺件数

は、国立・私立も調査対象にした平成18年度から1500人程度で大きな変化は見られない。文科省は、学校現場や自治体独自の取り組みを参考に、「使える教材」を作りたい考えだ。

3年前、当時中学3年生の女子生徒がいじめを受けて自殺した事件が起きたさいたま市。

現在、市教委では悩みやストレスへの対処法や友人関係づくりのスキルをグループワークで学ぶ授業「いのちの支え合い」の全校実施計画を進めている。

小学校で「悩みと上手に付き合おう」「友だちのよい相談相手になるう」といった友人関係づくりを学習。中学校では、ストレスを感じたときの

対処法や相談機関への接触の仕方を学ぶ内容だ。授業時間が増える教育課程への負担を考慮して特別活動の時間で実施している。

同市では来年度から、全小・中学校で5小から中3までの5年間、各学年1時間ずつの実施を予定している。

先月31日には、画家の夢ら丘実果さんと東京、

埼玉の小・中学校教員が、実践報告書を手の中川正春文科相を訪問した。絵本の読み聞かせによる命の教育が、子どもの自殺やうつ防止に役立つなど訴えた。